

保育計画成果報告書

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 法人名 | 社会福祉法人 矢本愛育会 |
| 施設名 | 矢本西保育園 |
| 報告者（役職） | 鈴木 よし子（園長） |
| 住所・連絡先 | 宮城県東松島市矢本字道地浦139-1 |
| | ☎ 0225-84-2801 |
| | E-mail nishihoikuen@joy.ocn.ne.jp |

○タイトル（保育計画）

プールを活用し四季の遊びの環境の場を作る

○主な助成備品

据え付けプール

1. 実施した保育計画策定の目的

矢本西保育園は、東日本大震災の翌年4月に開園しました。震災の影響から保育園建設が遅れ、開園ぎりぎりでの引き渡しとなり、プール設置までの余裕がなく、公立で使用していた組み立て式のビニール製のプールを使用していましたが、園庭に設置の為、夏祭りや運動会など園庭を使う行事に合わせ、残暑が厳しくても片付ける必要があり、子ども達の事を第一に考えた保育になっておらず、心痛めていました。据え置き型であれば、年間通して固定場所に設置し、夏だけでなく四季を通して青空保育室のように活用し、子ども達に新しい活動の場の提供ができ、また保育士にも柔軟な保育環境での活動を考えて欲しいということを目指しました。

2. 具体的な実施内容

年間を通しての活用ということを目的にしていることから、年度初めにプール企画担当者を決め、年間計画を作成いたしました。

春：ひなたぼっこ・足湯ごっこ（写真①・②）を計画しました。

4月に入り、子ども達が待ちに待った大きなプールを年長児組が中心となり掃除をし、そのまま「ひなたぼっこ」となり、おもいきり背伸びをしたり、泳ぐ真似をしたりと大きなプールを体で感じる事ができたようです。

足湯ごっこではマルチパネルを組み立ててベンチにし、戸外遊びの後に3、4、5歳児組が乳白色のお湯に足をつけました。お湯に色がついていることで、初めて体験する子どもも温泉気分抵抗感なく足湯を楽しむ事ができたようです。子ども達の「気持ちいい～！」の声と笑顔で、職員の心も温かくなる光景でした。



写真①



写真②

夏：プール（写真③・④）・魚釣り・船遊びを計画しました。

プール本番の水遊びを十分に楽しんだ子ども達です。どの年齢の子どもも大きなプールで伸び伸びと、今までできなかったバタ足や潜り、保育士の泳ぐ姿を見てのまねっこ泳ぎ、また、牛乳パックでできた船に乗っての体験や水の量を加減してのシンクロごっこ、子ども達からの発想で、それぞれの年齢に合った遊びを十分に楽しむことができた最高の夏になりました。



写真③



写真④

秋：落ち葉遊び・キャンプごっこ・芋掘りごっこ（写真⑤・⑥）を計画しました。

みんなで散歩などで拾ってきた松ぼっくりやどんぐり・葉っぱなどの秋の自然物。そして毎年のさつま芋掘り体験。今年はさつま芋の収穫量が少なく、0，1，2歳児組の芋掘りは見学だけの為、プールに芋のつるに見立てた新聞紙を入れ、芋掘りごっこをしました。子ども達のこの表情を見てください。どの子も保育士も十分に体を動かし、満足した遊びとなりました。小さい組の楽しい遊びを見た以上児組の子ども達も、新聞紙の中に潜っては秋の自然物を見つける遊びや、新聞紙を丸めて一足早い雪合戦ごっこをするなど遊びも活発になり、歓声とともに遊びを楽しみ、室内とは違うダイナミックな遊びとなりました。



写真⑤



写真⑥

冬：スケート遊び・雪まつり・かまくら作りを計画しました。

テレビ等の影響から「スケートごっこ」や「アナと雪の女王」のなりきりごっこをしている子ども達の姿から、担当保育士がカラーポリで衣装（スカート）を作り、プールの中にリンクを作る工夫をしましたが、今年は極寒という日もありましたがうまくできず、また雪の降る回数も少なく、計画倒れとなり、実現できませんでした。その代わりに、春に好評だった足湯を卒園する年長児のリクエストでもあり、「げんきの湯」「にごりの湯」「つるつるの湯」と名付け実施する予定でいます。今回も障害児デイケアセンター「こどもの広場」の子ども達も招待しての体験で子ども達の表情が楽しみです。

3. その成果と評価

据え付けプールの為、年間通して活用できるようプール環境とプール周りの環境を整備しました。プール本来の水遊びでは、今までと違う大きいプールということで、水の量を加減し、その年齢や目的に合わせた遊びが十分にでき、年長児は保育士の泳ぐ姿（これまでのプールではできなかったことです）が刺激となり、自分もやってみよう自分もできるかもという挑戦する姿が多く見られ、「できた」「たのしい」が自信につながり、このことがきっかけで何にでも挑戦する姿、自信ある活動が見られるようになったように思います。

保護者の方々からは小学校に就学してからの学校プールでの心配も聞かれていましたが、今年度のプールの様子を見てからはその心配もなくなったようです。また、子ども達が自主的に考え出した遊びは、本当にどの子ども生き生きとしており、満足するまで遊んだ姿には、保育士も一緒に満足し、普段の保育室とは違った青空の下での保育室での活動は心身ともに開放的であり、保育士間でもプールを活用した遊びを柔軟に考えることを知り、これからの保育の幅の広がりにつながることを改めて感じる事ができたと思います。

4. 今後の課題と展望

屋外設置の為、計画通りにいかなかったことが、反省でもあり残念に思います。しかし今年度できなかったことを次年度に実施するだけでなく、新しい計画も作成し、十分活用していきたいと考えています。次年度は乳児にも開放し、戸外ではできないハイハイを行うなど、戸外で他の子ども達の気配を感じながら青空の下での保育に活用したいと思います。また、障害児デイケアセンター「こどもの広場」の子ども達との交流が足りなかったことから、お互いの職員で計画を立て活用できるようにしていきたいと考えています。楽しいことだけの活用ではなく、着衣水泳の体験も大きいプールだからこそできるのではないかな等、活用方法を今後の課題として考えていきたいと思っています。

以上